

「過越の食事を準備する」

2015年12月14日

ルカによる福音書 22 章 7 節～13 節。過越の小羊を屠るべき除酵祭の日が来た。イエスはペトロとヨハネとを使いに出そうとして、「行って過越の食事ができるように準備しなさい」と言われた。二人が、「どこに用意いたしましょうか」と言うと、イエスは言われた。「都に入ると、水がめを運んでいる男に出会う。その人が入る家までついて行き、家の主人にはこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越の食事をやる部屋はどこか」とあなたに言っています。』すると、席の整った二階の広間を見せてくれるから、そこに準備をしておきなさい。」二人が行ってみると、イエスが言われたとおりだったので、過越の食事を準備した。

^{すぎこし}過越祭を祝うために巡礼に来た人々はエジプトの奴隷から解放されたことを記念する過越の食事を必ず守った。6品が用意される。① 小羊の肉。鴨居と柱に塗られた小羊の血の徴を見て、主は家を過ぎ越された。小羊によって守られたことを想起させるものである、② 種入れぬパン。出エジプトした時、除酵のパンを持って、急いで脱出したことを想起させるものである。③ ぶどう酒。40%の水割りのぶどう酒が大きな杯に用意された。④ わさびやニガハッカなどの苦菜。エジプトでの苦い体験を想起させるものである。⑤ ハロシエスと言われるなつめやざくろなどの練り物。エジプトでの煉瓦作りの苦労を想起させるものである。⑥ 一鉢の塩水。奇跡的に紅海を渡った海水を想起させるものである。これらの食事は出エジプトした時の先祖の苦労と神の守りを思い起こすもので、彼らは苦難を追体験し、神の恵みを現在化して、過越祭を祝ったのである。

主イエスはペトロとヨハネとを使いに出そうとして、「行って過越の食事ができるように準備しなさい」と言われた。二人が、「どこに用意いたしましょうか」と尋ねると、「都に入ると、水がめを運んでいる男に出会う。その人が入る家までついて行き、家の主人にはこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越の食事をやる部屋はどこか」とあなたに言っています。』すると、席の整った二階の広間を見せてくれるから、そこに準備をしておきなさい」と答えられた。

エルサレムは、主イエスの命を狙う祭司長や律法学者たちがいる危険な所であったが、主イエスを愛し信頼して、申し出に協力を惜しまない人々がいた。エルサレム入城のために子ろばを用意してくれ、また、過越の食事を提供してくれている。殊に、過越の食事をした二階の広間は、以後も重要な場所になった。

聖霊降臨日、「一同が一つになって集まっている」と書かれているが、この場所が二階の広間ではなかったか。また、使徒言行録 12 章には、投獄されたペトロが天使の導きによって、牢から出られた事件を記している。脱獄した「ペトロは、マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。そこには、大勢の人が集まって祈っていた」と書かれている。このマリアの家が二階の広間ではないか。そうすると、二階の広間は、最初に生まれたエルサレム教会ということになる。主イエスのご命令に惜しまず協力すれば、大きな働きをする場にくださるというメッセージとして聞くことができる。

ペトロとヨハネが行ってみると、主イエスが言われた通り、二階の広間は席が整えられていた。二人は喜び、過越の食事を準備した。主の晩餐、弟子たちとの別れの「最後の晩餐」と言われる場所が用意されたのである。